

INASA TOWN



■ 水野 真彰 ■
 ★ 山いき隊 引佐地域担当
 ★ 令和二年四月 活動開始

□ 狩猟・鳥獣捕獲に携わる □

水野さんは、山いき隊の活動としても、プライベートとしても狩猟・有害鳥獣駆除に携わっています。猟銃を持って林道を車で巡回したり、山の中を歩いたりしながら、シカやイノシシを探することもありますし、獣害に頭を悩ませている農家さんの畑の周りに罠をかけることもあります。

□ 獣と山のことを知りたい □

取材時は、ちょうど猟期にあたる時期だったため、林道を巡回してシカを探す作業や農家さんの畑の周辺に罠を設置する作業に同行させていただきました。林道を巡回しながら、獣は個体によって動き方や性格が違うこと、

様子を伺うシカと猟銃を手に向かい合う水野さん



ぬた場（獣が体に泥をぬる場所）

罠にかかったシカにとどめを刺すため

獣の動き方を予測するためには地形を熟知しておく必要があることなどを話してくれました。今では、獲物を探して捕獲してさばくまでの全ての工程を基本的には一人でやっている水野さんですが、「うまくいかないことばかりで、やるたびに課題が見つかる。それを改善して次に臨むっていうことの繰り返し。」と笑っていたのが印象的でした。登山好きな水野さんなのですが、今では遠出をするよりも、自宅の裏山を歩いて獣道や獣の糞などの痕跡だったり、沢や尾根の位置だったりを気にかけてながら、獣の動きを想像することに夢中になっているそうです。

□ 獣と対峙するということ □

水野さんがまだ猟銃を扱えない頃、

畑周辺にかけた罠を巡回



罠の設置

□ 筆者のひとこと □

罠の見回りをしている時に、畑の持ち主の方が「いつもありがとうね。」と水野さんに声をかけていたのが印象的でした。考えや理想を共有するよりも、考えを行動に移すことの方が難しいと私は思っているのですが、水野さんは後者の姿勢を自然と体現している印象を受けました。私もそういう姿勢であれば、と強く思います。うまくは言えないですが、生き物を探し歩いて・獲って・さばくという感覚（経験するかどうかはまた別の話として、そういう世界があるという認識）が薄れていくのは大きな損失のような気がしています。水野さんや狩猟・採集が暮らしの一部になっている地域の方々の振る舞いをこれまで間近で見えてきて改めてそう感じました。

